

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」南宮崎事業所			
○保護者評価実施期間	2024年12月4日		～	2024年12月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2024年12月4日		～	2024年12月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通われている幼稚園や保育園に訪問して情報共有を行う関係機関連携を多く実施している点。	保護者様の要望やお子様の状況に合わせて関係機関との連携を行うことを通して、情報の共有・すり合わせを進める機会を設定しています。また、個別では見えにくい集団での困り感を、通われている幼稚園や保育園での様子を見せていただいたり、指導員と共有することで拾い上げ、集団での困り感が軽減できるように個別の支援の中で出来ることを考えています。	さらに園や他事業所など関係機関との連携を視野に入れながら、保護者様との共有(家族支援を含む)や相談員との共有を積極的に行うよう努めます。
2	支援中の様子のフィードバックや、ご家庭、通われている幼稚園や保育園での様子をしっかりと共有出来ている点。	お子様の様子にもよりますが、必要な時には支援の様子を見ていただき、状況に応じて参加もお願いしています。支援後は10分～15分程度のフィードバックを行う時間を設け、今日のプログラムのねらいや支援での様子、ご家庭、通われている幼稚園や保育園での様子を共有しながら進めることが出来ています。	フィードバックの時間内ではお伝えが難しかったり、きらりの職員に相談がある場合は支援とは別で30分～1時間程度、「家族支援」という形も取ることが出来ます。引き続き、保護者様との情報共有は丁寧にしながら支援を進めていきます。
3	お子様一人ひとりの体調や状況に合わせて療育の内容を変更したり、ペースをゆっくりにしたりと調整しながら進められる点。	お子様一人ひとりのその日の体調や様子について話すことを通して確認し、お子様の状況に合わせて相談をしながら支援を進めるようにしています。	引き続き、お子様一人一人の様子を観察しながら関わることを意識し、小さな変化にも気づいて対応できるよう心掛けていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が一階にあるが、駐車場が少なく、事業所の場所がわかりにくい点。	職員の車を移動させたり、できるだけ多くの車が止められるようにしているが、建物の建物の構造上対応は難しい状況。	通常支援の際には、詰めて駐車していただくようお願いしておりイベントの際には時間をずらして来所していただくように事前に周知します。
2	保護者向けイベントの開催が不定期、回数が少ない点。	保護者向けイベントの開催が不定期で、参加しにくい状況があります。	保護者から話や悩みを聞くための面談の機会を設けます。保護者向けイベントの年間計画を作成し、事前にお知らせして参加しやすいように工夫します。
3	大きな部屋をパーティションで区切り、最大同時4支援行っている。お子様によっては職員や他児の声や、音のなるおもちゃの音が気になってしまうことがある点。	大きな部屋をパーティションで区切って支援ブースを作っているため。	個室を活用したり、お子様の特性によって支援時間を工夫したり、出来る限り支援の時間帯を分散させることで、集中して支援を受けられるように環境設定を行います。



	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	南宮崎事業所				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		同時帯に最大でも4人以内の利用になるよう支援の組み方を工夫し、大部屋や個室を含め部屋の区切り方を考えながら一人ひとりスペースを適切に使えるように工夫しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		常時人員基準を満たした指導員が出勤しており、支援時の緊急事態の発生も含め迅速に対応できるよう、調整しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		児発と放デイで分け、それぞれが楽しく遊べる空間を作っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期的な消毒・備品の安全確認徹底や子供たちの活動によって、机を移動させたり、その状況によって広くできるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーティションを使いながら同じ部屋の中でも一人一人の場所として使えるよう工夫しています。また、こどもの特性に応じて別室での支援も行っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		年に2回事業所と個人の目標設定を行っています。その目標に対して毎月振り返りを行い、個人での目標を持って取り組んでいます。職員間でも目標や振り返りを共有し、事業所全体でも取り組んでいます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様から頂いたご意見を真摯に受け止め、事業所内での共有を行いながら事業所運営の向上や業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎朝のミーティングで伝達をしている 個人面接を実施している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価は実施していない (重要事項でも説明添付している)
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		朝礼での共有、支援を担当する職員間での共有、事業所全体での共有し、職員の意見や考えについて話し合う機会を作りながら、業務改善に努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		努力義務として適切に支援プログラムが作成し、支援を行っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日頃の支援の中で保護者様の困り感や支援の中での様子について話し合い、指導員や児童発達支援管理責任者と一緒に共有を進めながら計画の作成を行っています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		複数の指導員で話し合いながらモニタリングの作成を行い、その内容に関して児童発達支援管理責任者と共有し、一人一人の計画の作成を進めています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画に沿った支援をいっている。また、計画にあった支援内容を振り返っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		その日の支援記録内に、自分が考えたこと、次回の改善点を記入している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」は、5領域の視点から支援項目を設定しています。「家族支援」「移行支援」は、日頃のお子様やご家族様の状況を把握することや、困り感を共有して頂く中で様々な視点から分析し、関係機関と共有できるように努めています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	支援の状況や、お子様の状態等、日ごろから職員間で話しあったり、引継ぎを行う中で情報の共有に努めています。	チームではないが、支援に困った際には心理専門職員を交えて支援プログラムを立案するようにしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お子様の変化に目を向け、その都度引継ぎを通してどのようなプログラムを実施するか検討しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		時間帯や、お子様の様子に応じて集団での活動を取り入れたり、イベントを通じて集団活動を組み合わせたりしながら活動しています。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		それぞれの職員の一日の流れを話す機会を設けて情報共有を図っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎回集団ではなく、個別が多いため、集団の際には、振り返りを必ず行うようになっています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援記録を毎支援ごとにとっています。支援内容だけでなく、指導員の対応やその後の結果、利用者様の言動や様子から想定される見解や、今後の対応策なども踏まえて記録に残しながら、支援の改善等に繋げています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に一度モニタリングを更新し、計画書の見直しを行っています。支援で見受けられた成長や、今後の課題などに加え、振り返り時のお話や、個別に相談したうえで、保護者様の思いも踏まえながら見直しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	担当制を採用しているため、極力担当の職員が参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	児童発達支援管理責任者が各関係機関と情報共有を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	事業所内でのみ行動できるでは意味がなく、外部環境でも行動がとれるように必要に応じて関係機関と連携を取っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	各関係機関と連携を図りケース会議などを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて連携を取ります
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		1時間の療養のため、支援の中ではないがイベントの際に兄弟児を受け入れたり、他の利用児と交流する機会を設けている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	支援後のふり返りだけでなく来所の際には近況をお聞きしたり、課題の中でできるようになったこと等を共有し、共通理解を図っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	研修ではないが、イベントを通して保護者様参加型を設けています。		
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約の際に詳細にお伝えしており、変更がある場合は変更点について再度お伝えしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	相談支援事業所の担当職員も含めた担当者会議を実施し、お子様やご家族の意向が反映された計画の作成に努めています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	対面で計画の内容を説明した上でご家族様の同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	半年ごとにアセスメント、モニタリングをおこなっており、FB時に相談を受けた際には傾聴し言える範囲で助言をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	毎年、保護者同士の座談会の場を設け、交流できる場を提供できるように努めています。	

説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		必要に応じて個別に相談の時間を設けながら、子育てや集団生活での困りごと等に対するの対応を一緒に考えていけるように努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に二回は必ず、ブログにお子様の様子を発信している保護者様にもLINEを通して周知している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に同意書を頂いており、職員は入社時に秘密保持誓約書を交わしている。また、個人情報にまつわるものは鍵付きのロッカーに保管している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		各個人に合わせて可視化することやジェスチャーなどで情報伝達を行っている。また、FB中は、他の職員が利用児を見るようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			事業所の行事には、まだ地域住民の招待をしていないので、した場合は事業運営を図りたいと考えている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故が起きた際や事故が起きそうになったときには、保護者様に周知し、1ヶ月に一回は必ず避難訓練をするようにしています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月1回避難訓練実施 毎年4月BCP作成 毎年10月ごろ内部監査で確認をしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に保護者様には、感染症にかかった場合お知らせいただくようお願いしていますので、保護者様には事前に連絡をいただいて、指導員に周知している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーの児童は契約時に確認し、イベントの際おやつをアレルギー対応に変えたりしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		契約時に説明をさせて頂いています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		ヒヤリハットや事故などは必ず保護者に報告して話し合いながら、ヒヤリにつながった原因を考え、保護者や職員間で共有しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの報告書を書き、朝終礼で共有し、職員間で原因やどうすればよかったかを考えるために話し合っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法定研修の全職員参加と虐待防止委員会では事例検討会を行い虐待についての研修の機会の確保を図っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		どのような場合もやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しています。		